

県内中小企業の経営状況

持ち直しの動きが弱まり、足踏み状態にある。
先行きには不透明感がみられる。

経営者の景況感DIは4期ぶりに悪化し、先行きには不透明感がみられる。

売上げDIは3期連続で改善したが、来期は悪化する見通し。

資金繰りDIは2期ぶりに改善したが、来期は悪化する見通し。

採算DIは2期連続で悪化し、来期も悪化する見通し。

設備投資の実施率は3期ぶりに低下し、来期も低下する見通し。

注1) 本文中の各DI値については、例えば「増加した」企業割合と「減少した」企業割合を四捨五入して表記しているため、±0.1の範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成22年7～9月期、「当期」：平成22年10～12月期、「来期」：平成23年1～3月期

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感DIは78.7で4期ぶりに悪化し、先行きには不透明感がみられる。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに悪化したが、非製造業はほぼ横ばいだった。

<景況感DIの推移>

	当期	前期	前年同期
全体	78.7	76.7	90.4
製造業	74.9	70.5	90.8
非製造業	81.4	81.0	90.1

<「良い方向に向かう」と回答した割合>

	当期	前期
全体	3.2%	3.4%
製造業	4.0%	3.8%
非製造業	2.7%	3.2%

<「悪い方向に向かう」と回答した割合>

	当期	前期
全体	43.3%	43.9%
製造業	40.4%	41.7%
非製造業	45.2%	45.5%

2 売上げについて

売上げDIは19.1で3期連続改善。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶり、非製造業は3期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを下回る見通しである。

<売上げDIの推移>

	当期	前期	前年同期	来期見通し
全体	19.1	23.7	35.2	33.4
製造業	10.0	17.0	22.5	30.7
非製造業	25.2	28.5	44.0	35.2

3 資金繰りについて

資金繰りDIは25.1で2期ぶりに改善。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業はほぼ横ばいだったが、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りDIを下回る見通しである。

<資金繰りDIの推移>

	当期	前期	前年同期	来期見通し
全体	25.1	26.3	42.6	32.0
製造業	20.4	20.3	37.3	29.5
非製造業	28.2	30.6	46.2	33.7

4 採算について

採算D Iは 38.2で2期連続で悪化。来期も悪化する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続、非製造業は4期ぶりに悪化した。

来期については、製造業は当期を下回るが、非製造業はほぼ横ばいで推移する見通しである。

<採算D Iの推移>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	38.2	37.5	52.6	40.2
製 造 業	31.9	31.4	45.6	36.3
非製造業	42.4	41.9	57.4	42.8

5 設備投資について

実施率は16.2%で3期ぶりに低下。来期も低下する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに低下したが、非製造業は2期ぶりに上昇した。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

<設備投資の実施率>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	16.2%	19.3%	15.1%	13.7%
製 造 業	19.2%	27.1%	17.4%	18.2%
非製造業	14.2%	13.7%	13.6%	10.7%

6 ヒアリング調査の概況 (詳しくは19頁以降をご覧ください)

景 況 感

製 造 業：持ち直しの動きに陰りがみられる

小 売 業：一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きがみられる

情報サービス業：悪化が続いている

建 設 業：悪化が続き厳しい状況となっている

企業の声

「かなり仕事を抱えており、比較的好調である」(一般機械)

「主力の婦人服を中心に前年同期を上回った」(百貨店)

「10月頃から陰りがみえてきた。補助金終了の影響が大きいと思う」(輸送用機械)

「業界は二極化が進行しており、特徴のない会社はアジアとの競争を強いられ、さらに厳しくなるだろう」(プラスチック製品)

「冬物衣料は全くダメ。食料品も全般的に低調で好調なものを探すのが難しい」(スーパー)

「大手が良くなっているので、中小にもその恩恵があるものと期待している」(情報サービス)

7 特別調査事項結果の概況 「取引先金融機関の貸出姿勢等について」

(詳しくは26頁以降をご覧ください)

1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度は、「厳しくなった」が17.2%で、前年に比べ3.1ポイント減少し、2年連続で前年より減少した。

「中小企業金融円滑化法」に基づく貸付条件の変更等の申込状況については、全体の84.3%が申し込んでいない。一方、「申込みして変更が実行された」(12.8%)、「審査中」(1.6%)、「申し込んだが変更できなかった」(1.3%)となっている。